

関東ブロック支援活動報告について（群馬県）

1 支援先自治体及び状況

（１）支援先自治体：宮城県名取市

（２）被災状況

人 的 被 害：死者 882 人、行方不明者 1,000 人

下水道施設被害：名取市公共下水道が接続する阿武隈川下流流域下水道の終末処理場（県南浄化センター）は地震及び津波により甚大な被害を受け、生物処理機能を失っている。現在、沈殿・塩素消毒による簡易処理で応急対応中。２年後までの復旧を目指している。

2 支援人数

群馬県 2 人、太田市 2 人

構成：群馬県 県土整備部 下水環境課 副主幹 成澤篤史

群馬県 下水道総合事務所 主任 宮田嗣実

太田市 上下水道局 下水道整備課 課長補佐 小林利晴

太田市 上下水道局 下水道整備課 技師 菊地聡

3 支援期間

平成 23 年 4 月 5 日（火）～平成 23 年 4 月 11 日（月）

（１）4 月 5 日（火）（1 日目）

ア 行 程 ①出発（群馬県庁）～宮城県庁

②宮城県庁～名取市役所

イ 業務内容 ①災害調査全体の説明及び打合せ（宮城県土木部下水道課）

②調査内容に関する具体的な打合せ（名取市建設部下水道課）

（２）4 月 6 日（水）～4 月 10 日（日）（2 日目～6 日目）

ア 行 程 ①宿泊地（山形県山形市内）～災害調査場所（宮城県名取市内）

イ 業務内容 ①増田エリアの災害一次調査

管路及びマンホールの被災状況の確認

（３）4 月 11 日（月）（7 日目）

ア 行 程 ①宿泊地（山形県山形市）～群馬県庁

イ 業務内容 ②宮城県土木部下水道課へ災害調査が完了した旨を電話連絡

4 下水道管渠の状況

(1) 被災数量

一次調査実施箇所（延長 10,225m、スパン数 340 スパン、マンホール数約 400 基）のうち、被災又は二次調査が必要と判断された数量は、延長 1,055m、スパン数 34 スパン、マンホール数 78 基であった。

多くはマンホール内の滞水と接続する本管の流下不良であったが、マンホール部材の破損や管路上部の路面陥没、マンホールの突出も確認された。



マンホール内滞水



躯体ブロック上縁部の破損



管路上部の路面陥没



マンホールの突出

5 一次調査の活動状況

(1) 調査方法

エリア内の全マンホールの開閉を行い、マンホール内部の被災状況を確認し、被災があった場合に限り一次調査票に必要事項を記入する。被災箇所については写真（マンホール番号の分かる全景写真と被災箇所の拡大写真）を撮影する。

管路の被災状況の確認として、可能な範囲でマンホール間についてミラーとライトにより、管路にたわみや管口付近に異常がないかを目視で確認し、調査結果を一次調査票に記入する。

調査済み箇所や被災が確認された箇所については、系統図にマーカーペンや鉛筆で印や被災内容を記載する。

(2) 調査結果

一次調査実施延長	10,225m
一次調査実施スパン数	340 スパン
一次調査被災マンホール数	78 基
二次調査必要延長	1,055m
二次調査必要スパン数	34 スパン
二次調査必要マンホール数	78 基

(3) 調査状況



6 支援活動を通しての感想

今回調査した現場は大規模な液状化が発生したわけではないので、マンホールの突出など路上から一目で分かる被災は多くはなかった。ただし、いざ蓋を開けてみると滞水しているマンホールが多数あり、本管の破損及び流下阻害が疑われた。これらは吸泥車で滞水及び堆積汚泥を排除し、TVカメラ調査（二次調査）を実施しないと実際の被災状況が分からないので、発見が困難な被災であると感じた。下水道の一次調査は地道にマンホール蓋を一つ一つ開けないと調査が行えず、多くの人手を必要とする。今回の我々の支援は微力なものであるが、名取市の一日も早い復興を願っています。